

一誌一句(受贈誌8・9月号他より)

米田透抄出

兜虫の威厳が子らに感染す

(青芝)

梶原美邦

礼状を出せぬままなり百日紅

(麻)

嶋田麻紀

夕景となるまで端居してゐたり

(沖)

能村研三

み仏のおはす湖北の水澄めり

(春嶺)

古澤宜友

雛芥子の花散る日なり「逢ひたいね」

(多磨)

関成美

雷鳴は彼方しづかに訃報来る

(菜の花)

伊藤政美

社殿のみ日のあり杜に蝮草

(夏爐)

古田紀一

海女小屋に旗立つ海胆漁の合図

(駒草)

西山睦

夏つばめ翻るたび空傾ぐ

(星座)

植野順聞

駅員に巢に戻さるる燕の子

(春月)

戸恒東人